



心と心でつながる、世界に開かれたふくしま



GYRO

FIA MAGAZINE



ジャイロ

VOL.
120

平成27年11月号

ジャイロスコープ（羅針盤）の名称をとって、広報紙「ジャイロ」の名称としています。

CONTENTS

- P.3 福島から世界へ!
リオデジャネイロパラリンピックを目指して
～星純平さん（ブラインドランナー）～
- P.4 Voice from Foreigners in Fukushima
～タイゼン・剛さん（ドイツ出身）～
- P.5 事業Report
～海外からの視察受入れ～
- P.6-7 FIA Information

コラム

〜ミネソタ州ってどんなところ?〜

（棚倉町外国語指導助手）

インタビュー
シャノン・イェクリーさん

Interview with Foreigners

P.1

カンボジアの青空

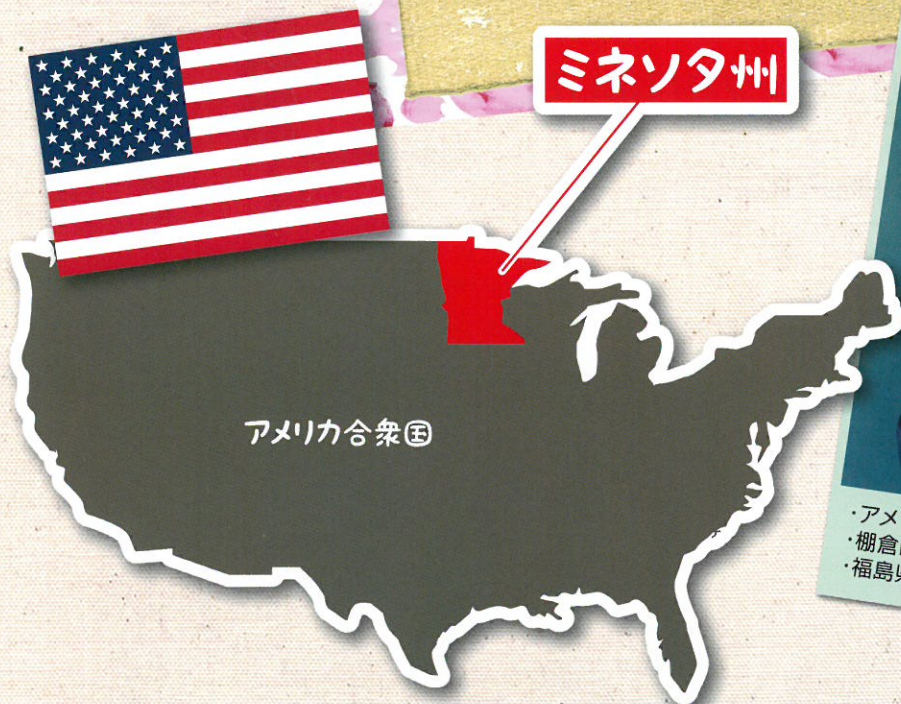


Interview with Foreigners



Shannon Yeakley (シャノン・イエクリー)さん

剣道4段、居合道4段、杖道4段、弓道3段、そして、剣術に流鏑馬…、こんな武道家外国人が福島県にいてをご存知ですか？棚倉町英語指導助手(ALT)のシャノン・イエクリー先生です。アメリカ出身のシャノン先生は、大学で日本語を専攻し、秋田市に一年間留学した後、22歳の時に棚倉町のALTとして福島県にきました。日本の歴史、伝統文化、そして、武道をこよなく愛するシャノン先生にお話を伺いました。



・アメリカ(ミネソタ州)出身
・棚倉町英語指導助手
・福島県滞在歴9年

現在に至るまで

棚倉町には、人材派遣会社を通して赴任しました。東日本大震災が発生した際には、会社から町外へ避難するように言われましたが、友達やお世話になっている人がたくさんいる棚倉町の力になりたいと思い残りました。近所の人から、「米と味噌と灯油があれば何とかできるよ!」と差し入れを持ってきてくれた時はうれしかったです。その後、人材派遣会社との契約は終了しましたが、幸いなことに町で直接雇用してもらえることになり現在に至ります。

仕事について

現在は、町内の4つの幼稚園と5つの小学校で英語を教えています。子どもたちに英語は楽しいと感じてもらうことと、子どもたちとのふれあいを大切にしています。赴任当初は、子どもたちがなかなか自分に慣れず、難しさを感じたこともありましたが、今では一緒に給食も食べますし、すごく馴染んでいます。

日本の学校とアメリカの学校の違いで少し驚いたことが、掃除と給食です。アメリカでは掃除専門のスタッフがいるので、子どもたちが自分で掃除することはありません。また、アメリカでは昼食は食堂で食べるので、給食も日本独特の風景だと思いました。当初は驚いたことも、9年もいると当たり前になってしまいます。



福島で生活して

武道を始めたきっかけは、おもしろいと感じた上に、何より“心を磨く”ことが好きだからです。剣道は棚倉町、杖道と居合道は石川町、弓道は浅川町、流鏝馬は古殿町、そして、剣術は千葉県の野田市で習っています。土日はもちろん、平日でも練習があります。剣道は、習いながら地域のスポーツ少年団で子どもたちに教えています。また、昨年友達に誘われて町の消防団に入団しました。先日、早朝3時頃に火災が発生した際には出動しました。棚倉町のPR用VTRに出演して町の魅力をアピールしたこともあります。今年も町の秋祭りに参加しましたし、本当に棚倉町が好きです。自分の日本語に福島訛りがあるとされた時には、うれしく思いました。

福島県は自然が豊かで、会津若松市の鶴ヶ城や三春町の滝桜など、歴史を感じることができる場所がたくさんあり、魅力的だと思います。そして、食べ物がおいしいです。秋田に留学した際に日本酒の味を覚え、福島日本酒も大好きです。福島のおいしい食べ物と日本酒との相性が抜群です。また、お酒そのものに加え、みんなで集まり、一緒にお酒を飲む雰囲気を楽しんでいます。



流鏝馬～難しいけどおもしろいです～



弓道も奥が深いです



消防団に入団しました

将来の展望と日本の若者へのメッセージ

今後も武道を続けながら、ALTの仕事が続けていこうと思っています。将来的には家を建てて、棚倉町に骨をうずめるつもりです。あとは、流鏝馬をやっていると、どうしても馬が欲しくなります。自分の馬を持って、野馬追に出場したいです。

日本の若い世代の人には、これからも日本の伝統文化を大切に、守って欲しいと思います。神社やお城等の日本の伝統的な建築物を例に挙げると、日本人にとっては子どものころから慣れ親しんだ風景かもしれませんが、外国人の私にとっては、その歴史や由来等を知ることから始まります。なぜ大切に守らなければならないのか、その意味を考えることが重要で、それにより日本の伝統文化のおもしろさがわかると思います。武道については、勝ち負けよりも相手を敬う姿勢や礼儀が大事であり、子どもたちに教える時には、そこを意識しています。

Column



コラム
ミネソタ州って
どんなところ？

シャノン先生の出身地であるミネソタ州は、アメリカ中西部のカナダとの国境沿いに位置しています。福島県には猪苗代湖という国内で4番目に大きい湖がありますが、ミネソタ州にも、非常に多くの大小さまざまな湖があります。ミネソタ州の人々にとっては、川遊びよりも湖遊びが一般的であり、湖で泳ぐのはもちろん、ボートに乗ったり、釣りをしたりといったように、憩いの場となっています。そんな自然豊かなミネソタ州に、一度遊びに行ってみてはいかがでしょうか。

Report

福島から世界へ!

リオデジャネイロパラリンピックを目指して

～星 純平さん(ブラインドランナー)～



福島市在住の星純平さんは、平成26年12月にカンボジアで開催された、アンコールワット国際ハーフマラソンで7位に入賞し、現在は、リオデジャネイロパラリンピックへの出場を目指しています。病によって徐々に視力を失い、30歳で全盲となっても、世界の大舞台に挑戦している星さんにお話を伺いました。

マラソン挑戦に至るまで

中途失明してからマラソンを始めるまでの数年間は、身も心も家に引きこもった暗い毎日でした。どうにかして前に進まなければと考えていました。そんな時、盲人マラソンの伴走経験のあるヘルパーさんから「走ってみたいか。」と誘われた事から、思い切って走る事を始めました。最初は、2～3km走るだけで全身が筋肉痛になり、両膝は腫れ上がってしまって、階段の上り下りができないほどの激しい痛みに苦しめられました。それは、生活に支障をきたすほどの痛みでしたが、これまでの引きこもっていた生活から抜け出さなければならぬという思いや、自分の人生の苦しさに負けたくないという気持ちから、頑張ってみる事を選びました。走っている時に感じる頬にあたる風や小鳥の鳴き声、体が訴えてくる痛みは、失明と共に失ってしまっていた『生きている感覚』と言うようなものを鮮烈に蘇らせてくれました。走り続けるために目標としてきた、フルマラソン3時間以内での完走を実現する事ができたのは、マラソンを始めてから4年後でした。

アンコールワット国際ハーフマラソンに出場して

世界各国から約3,700人が集まりましたが、ヨーロッパからの出場者が多く、日本人の参加者は60人程でした。盲人ランナーは私だけで、NPO法人ハート・オブ・ゴールドの支援を受け、伴走者の加藤将士さんと共に出場しました。初めての海外ということで、周りから聞こえてくる外国語や日本の大会とは違うゆるい感じの雰囲気等、すべてが新鮮でした。スタート前、選手を並ばせるために設けられた鉄の柵を、レース前の湧き出す興奮を抑えきれないと言うように、選手たちがその柵をガンガンと激しく揺らす音は、目の見えない私にはとても怖く思えた事を思い出します。また、レース中も国内の大会とは違うことの連続で、コース内にも関わらずバイクタクシーや観光バスが、選手の傍らを当たり前のように走り抜けていきました。さらに、前を走る各国の選手に、「I am a blind runner.」と声をかけるとコースを譲ってくれ、盲人である私が上位を走っている事を見て、「Excellent!」と、選手からも沿道からも暖かい歓声を受けながらのレースは、とても気持ちのよいものでした。

このレースでは、私の伴走をしてくれた、加藤将士さんを困らせた事がありました。それは、給水でした。交通事情の違う海外では、給水所が日本とは逆にあり、私の左側を走る伴走者の加藤さんにとって、右側に備えられた給水を取り、私に渡すと言う事は、どうしようもなく難しい事でした。給水に苦労している私たちを見ていたオランダ人のランナーが、伴走者の代わりに給水を取って、私たちに渡してくれました。それは、とてもうれしい出来事でもありましたし、スポーツをする者のみが知る事のできる感動でもありました。言葉の違いや人種や国境などは、その時、そこには一切ありませんでした。

※NPO法人ハート・オブ・ゴールド

「スポーツを通じて国境、人種、ハンディキャップを超えて希望と勇気の共有を実現」することを理念に活動しているNPO法人。オリンピックのマラソンメダリストである有森裕子さんが代表理事を務める。



左から、伴走者の加藤さん、星さん、有森さん、ハート・オブ・ゴールド福島事務局の今野さん

富岡町出身。高校卒業後、福島県立盲学校で、マッサージ、鍼(はり)及び灸(きゅう)の資格を取得し、福島市に「みこと治療院」を開業。34歳からマラソンを始め、仕事の傍ら、日々マラソンの練習に励んでいる。

今後の展望と日本の若者へのメッセージ

現在、リオデジャネイロパラリンピック選考レースである来年2月開催の別府大分毎日マラソンへ向けてトレーニングを重ねています。カンボジアのレース中、伴走してくれた加藤将士さんに頂いた「これで満足しない!」と言う熱い励ましの言葉を噛みしめながら、苦しいトレーニングに負けず気を引き締め、私を支えてくれる方々へ心からの感謝を忘れずにレースに挑もうと思います。

私自身がそうであるように、人には様々な可能性が秘められていると思います。若い人はまず一歩目を踏み出し、苦しさを乗り越えながら努力を続けていくことで、その可能性を広げていくことができると思います。新しい環境に飛び込み、様々なことに挑戦して、自分自身に秘められた可能性を引き出して欲しいと思います。



オランダ人ランナーとの記念撮影 (一番右が星さん)

ESSAY

Voice from Foreigners in Fukushima

タイゼン・剛さん(ドイツ出身)

こんにちは!ドイツの“ポット”(方言でルール地方の呼び方)から参りました、タイゼン剛と申します。今年の8月から経済交流員として福島県庁で勤めています。正直に言えば、福島に来たのは初めてではありません。母の出身地でもある福島には幼い頃から夏休みに遊びに来ていたり、高校時代に長期間住んだ経験もあります。なので福島の魅力的な春夏秋冬、様々な自然とその美しさはすでに存じております。

今回来福して初めて旅行したのは会津といわきです。東西でこんなにも食文化等が異なることを知り驚きました。会津のソースカツのボリュームはドイツの量に負けていませんね!

その他にも、仕事を通じて今まで県内で15社以上の医療機器と再生可能エネルギーの分野に関わっている会社を見学できた事で、福島の企業が持つ技術、それらを取り巻く環境などを詳しく初めて知る事が出来ました。

これからも様々な企業訪問、新しい出会い、地域への旅行や日本酒の味見を楽しみに、経済も含め、福島の復興の為に一生懸命頑張って行きます。がんばっぺ!

Hallo! Mein Name ist Go Theisen und ich komme aus Deutschland, um genauer zu sein aus dem Pott. Seit August dieses Jahres arbeite ich als „Coordinator for International Business“ für die Präfekturverwaltung in Fukushima-City. Zugegeben, es ist nicht mein erster Aufenthalt in Fukushima. Mütterlicherseits liegen meine Wurzeln in der Präfektur, sodass ich von klein auf in den Sommerferien und ein mal für eine etwas längere Zeit während der Highschool, hier zu Besuch war. Die faszinierenden vier Jahreszeiten, sowie die Schönheit und Reichheit der Natur die Fukushima zu bieten hat sind mir daher bereits bestens bekannt.

Dieses mal habe ich nach meiner Ankunft erstmalig Aizu und Iwaki bereist. Es war überraschend wie sehr sich unter anderem die Esskulturen im Osten und Westen der Präfektur voneinander unterscheiden. Die Riesenportion an „So-su Katsu“ (Schnitzelähnliches Gericht auf Reis) kann locker mit der Menge von deutschen Gerichten mithalten!

Ebenfalls neu für mich ist die Industrielandschaft die Fukushima zu bieten hat, die ich über meine Arbeit kennen lernen konnte. Insgesamt habe ich bisher so in der ganzen Präfektur verteilt, über 15 Firmen und deren technisches Know-how im Bereich der Medizintechnik und Erneuerbaren Energien, kennen lernen können.

Ich freue mich sehr auf viele weitere Firmenbesuche, neue Bekanntschaften, Orte und neue Reisweinsorte probieren zu können und möchte mein Bestes zur Erholung Fukushimas, nicht nur wirtschaftlich, beitragen. Ganbappe! („Packen wir's an!“ - Mit Fukushima-Dialekt).



ボリューム満点でした!



福島再生可能エネルギー研究所を見学しました



大内宿にも行きました

Report

事業レポート

～海外からの視察受入れ～

当協会では、平成27年7月13日(月)から16日(木)にかけて、JAPAN SOCIETY「米国人教員のための日本研修ツアー」及び草の根交流サミット大分大会「福島プログラム」を受け入れ、視察先のコーディネートや現地への案内を行いました。

JAPAN SOCIETY 米国人教員のための日本研修ツアー

ニューヨークに本部があるジャパン・ソサエティの主催による米国人教員のための日本研修ツアーが、6月28日(日)から7月18日(土)までの3週間、主に西日本で行われました。7月15日(水)と16日(木)には、その一環として8名の教員が福島県を訪れました。

15日(水)は、浪江町に向かい、役場で職員の方から説明を聞いた後、駅前や請戸小学校を視察しました。

16日(木)は、あづま総合運動公園を散策した後、福島市立清明小学校を訪れました。まず、給食食材の放射能測定を見学した後、全校生徒による「夏の音楽祭」に参加して、学年ごとの発表を見たり、アメリカの歌を歌ったりしたあと、1年生と一緒に給食を食べて交流を深めました。

先生達は、アメリカでの事前研修で、除染情報プラザ作成のDVD教材により放射線に関する知識を身に

つけ、福島から東京に戻った後は、事後の振り返りを行いました。アメリカに戻ってからは、地域の人々や生徒達に福島の今の姿を伝えてくれるでしょう。また、今回は、ジャパン・ソサエティからの提案で、研修の様子をビデオで撮影し、全米の先生向けの教材として公開することになっています。

このようなツアーを受け入れるのは、今年で4回目です。今後も同様の要請があれば、積極的に研修を受け入れていこうと思っています。



草の根交流サミット大分大会 福島プログラム

公益財団法人ジョン万次郎ホワイトフィールド記念国際草の根交流センターでは、日本とアメリカで毎年交互に草の根交流サミットを企画しており、今年は7月6日(月)から13日(月)まで大分県で開催されました。そのサミット後にオプションで参加できる4つのプログラムの1つを福島にしたいとの依頼があり、当協会ではツアーの企画と当日の案内をしました。

13日(月)は、大分から羽田空港に到着した参加者を新幹線で福島市までお連れし、ホストファミリーとともに福島駅で歓迎セレモニーを行いました。

14日(火)は、被災と復興の状況を見ていただくため、まず福島市の除染情報プラザで放射能や除染について学んだ後、南相馬ソーラー・アグリパークを見学し、相馬市観光協会のご協力により相馬市内を視察しました。

15日(水)は、福島其自然や歴史に触れていただくため、裏磐梯の五色沼自然探勝路でのトレッキングや会津地方の伝統料理を楽しんだり、会津鶴ヶ城や酒造会社を見学したりしました。歴史や文化にとっても心を動かされたようです。

3日とも晴天に恵まれ、ホストファミリーとの交流や各訪問先での温かい歓迎ぶりに、参加者はとても喜んでいました。今後も、このようなツアーの案内の依頼があれば積極的に引き受けし、福島県の復興の様子を国内外に発信していきたいと思っています。





国際理解出張講座 実施団体募集中

当協会では、異文化理解、人権、貧困など世界規模の課題について、クイズやゲーム、グループディスカッションなどを通じて体験的に学ぶ講座を、県内各地へ出向いて実施しています。学校の授業、公民館・大学の講座、イベント、企業の研修など様々な機会にご活用ください。



Global Community Café (GC Café) 参加者募集中

Global Community Café(GC café)では、「言葉と文化」をコンセプトに、「グローバルコミュニケーションコース」と「English Communication Course」の2コースを開催しています。「グローバルコミュニケーションコース」では、毎回様々な外国出身の方を講師に迎え、講師の母国語に触れながら、出身国の文化を理解していきます。

「English Communication Course」では、毎回様々なテーマに沿った英会話を楽しみながら、講師の出身国の文化を理解していきます。

このGC caféは月1回開催しています。講師が準備したお菓子などを食べながらの気楽な講座です。



私たちは、賛助会員(団体)として協力しています。

(平成27年5月～8月末受付分)

ふくしま青年海外協力隊の会



福島日中文化交流会

福島移住女性支援ネットワーク



公益社団法人 福島青年会議所
Junior Chamber International Fukushima



発想から発送までお客様のニーズにお応えします。

タカラ印刷株式会社

一般社団法人 福島県産業廃棄物協会

福島市日本中国友好協会

新白河国際教育学院

一般財団法人 棚倉町活性化協会

株式会社 クサカ印刷所



陽光社印刷株式会社

株式会社興起測量設計事務所

エコー事務機株式会社

有限会社 エンドースクリーン

鏡石町国際交流推進協議会

(株)進和クリエイティブセンター

福島県日本中国友好協会

二本松国際交流ボランティア ざくざくネット

常磐共同火力(株)勿来発電所

会津土建株式会社

白河市国際交流協会

(公財)福島県国際交流協会は次の基本理念の下に活動しています

心と心でつながる、世界に開かれたふくしま

このグローバル社会において、本協会は、これまでの国際交流活動を礎に、県民と多様な価値観と言語を持つ世界の人々が、真に対等で良好な関係を築きながら、地域の活力につながる、世界に開かれた福島県の実現をめざし、様々な事業に取り組みます。

—基本方針—

- 1 世界に開かれた県民意識の向上を推進します
- 2 外国出身県民とともに創る活力ある地域づくりを推進します
- 3 多様な関係団体と連携した国際交流活動を推進します
- 4 世界に向けて福島を発信します (第4期運営基本計画より抜粋)

賛助会員を募集しています

当協会は、国際交流を通じて地域の活性化とより豊かな県民生活を実現するため、様々な事業を行っています。当協会の趣旨に賛同し、会費という形で当協会の活動をサポートして下さる「賛助会員」を募集しています。

■年会費

個人会員 3,000円/口

団体会員 10,000円/口

■振込先/公益財団法人 福島県国際交流協会

郵便局口座[02130-2-15560]

■会員の特典

①当協会主催事業をはじめとした国際交流・協力に関わる様々な情報を掲載した広報紙Gyro(年3回発行)をお届けします。

②当協会研修室使用料の会員割引が受けられます。

③当協会所蔵の書籍や資料、ビデオを無料で借りることができます(一部貸出しできない本もあります)。

④団体会員については、広報紙Gyroで団体名をご紹介します。

■所得控除

当協会への賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

外国出身者のための相談窓口

当協会では、外国出身者のための相談に多言語で対応しています。相談は電話と面談で行います。秘密は厳守しますので、安心して相談してください。なお、相談はカウンセリングとは異なり、相談者の自己決定・自己選択を前提とし、様々な情報や選択肢を提供するものです。

■英語・中国語・日本語

火曜日～土曜日 9:00～17:15

■タガログ語・ポルトガル語・韓国語

木曜日 10:00～14:00(但し、第4・5木曜は事前予約が必要)

相談専用: TEL 024-524-1316

FAX 024-521-8308

E-mail ask@worldvillage.org

寄附金を募集しています

当協会では、県民の国際交流に関する幅広い分野の活動を促進することにより、世界の人々との友好親善と相互理解を深めるとともに、多文化を持つ県民がともに生きる活力ある地域及び豊かな県民生活の実現に寄与する事業を行うため、皆様からの寄附金を募集しております。

寄附をしていただける方は、所定の「寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、持参、メール、ファックス又は郵送にてお申し込みください。申込書を受領後、振込用紙をお送りいたします。詳細につきましては、当協会HPをご参照いただくか、直接お問い合わせください。

FIAメールマガジン登録のご案内

当協会では、福島県内外の国際交流団体が実施するイベントや国際交流に役立つ情報などを提供するメールマガジンを月2回発行しています。登録・購読は無料です。購読をご希望の方は、当協会HPからご登録いただけます。皆さまのご購読をお待ちしています。

■登録方法

当協会のHPのトップページにあるメールマガジンのバナーをクリックし、メールマガジンサイトにある入力フォームに、登録したいアドレスを入力してください。登録後に仮完了となり、アドレスに認証メールが送られてきます。認証URLをクリックして、登録を完了させてください。

公益財団法人 福島県国際交流協会

TEL:024-524-1315

FAX:024-521-8308

E-mail: info@worldvillage.org

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1

福島県庁舟場町分館2階

公益財団法人福島県国際交流協会内



*福島駅東口より徒歩20分